

オーディオ論壇収載

EQ 特性に関する調査の集約 (HP 収載)

【始めに】

EQ 特性に関する調査に関する一連の経過報告を整理して要約する。

【調査内容】

1. アナログ盤制作側の経過

1930 年代から現代にいたるまで、アナログ盤の制作は、「House Standard」に終始し、その傾向を現在まで引きずっている。総合的な情報は十分とは言えないし、盤制作や販売側からの情報公開もほとんどないのが現状である。

Historical Recording Characteristics

https://pspatialaudio.com/record_characters.htm

* 本サイトでは TELDEC カーブに言及している。

<https://audiocirc.com/2016/06/30/equalization-curves/>

* 本サイトでは EMI カーブに言及している。

自身で経験した混乱の事例を下記に記載する。

PHILIPS のイムジチのヴィヴァルディ全集は、蘭盤の TELDEC の逆相であるが、販促用の国内制作のサンプル盤は RIAA の正相であった。(ヴィヴァルディ盤を聴く(6))

ケルテスの新世界やアンセルメの三角帽子の LONDON 盤は、DECCA の逆相であるが、ESOTERIC のリマスター盤は RIAA の逆相であった。(音源の比較試聴(25))

ダイアナ・クラールの VERVE 盤は、現代の収録であるが、Columbia の逆相であって、RIAA になっていない。(音源の比較試聴(26))

2. 再生機器側の事情

RIAA のみの対応機器が大半であり、カーブ可変の機器は少ない。カーブ可変の機器があっても非常に高価であるか、小規規模のメーカー製品である。

カーブ可変の機器でも、採用カーブの統一がとれておらず、カーブの Turnover や Rolloff の周波数も公表されていないか、公表されてもメーカーによって食い違いもある。これは参照した原文献により食い違いがあるためと思われる。

関連する情報をオーディオ資料室の [イコライザーカーブの比較 1](#) と [イコライザーカーブの比較 2](#) に集約する。

* ESOTERIC や ZANNDEN でも諸説ありとしているが、カーブの

Turnover や Rolloff の周波数の情報がある。(イコライザーカーブの比較 1)

*盤のレベルとカーブの特性に関する個別情報の提供はない。例外的に ZANDEN では、盤のレベルとカーブの特性に関するリストを自社製品ユーザーのみに提供しているが、あくまで参考例と断っている。(イコライザーカーブの比較 1)

*オーロラサウンドと AIRTIGHT の製品は、イコライザーカーブ対応しているが、トーンコントロールの応用のようでもあり、詳細は不明 (イコライザーカーブの比較 2)

以上から、盤の特性と機器側の機能の情報に乏しいことから、多くの場合、ミスマッチングのまま再生されているという危惧がある。

RIAA カーブのみ対応機器の場合、トーンコントロールの調整で一定程度その他のカーブの盤に対応できる場合がある。(EQ カーブ対応トーンコントロールの調整(11))

3. オーディオジャーナリズムの状況

イコライザーカーブに関する解説はほとんど見られず、この問題をさけているように思われる。イコライザーカーブ可変の機器の試聴記事があつても、盤とのマッチング評価の記載は見られない。

<https://www.phileweb.com/review/article/202501/30/5913.html>

4. ユーザーサイドの状況

大半は関心も薄く、RIAA のみの製品で対応している。このことはオーディオジャーナリズムの動向にも影響を受けているものと思われる。関心があつても高価であつたりして、入手の困難さや情報不足もあり躊躇している場合がある。

5. 拙宅の状況

iFi の iPhono を経て、偶然の機会から ZANDEN Model 120 を導入した。当初は、経験不足やシステムの能力不足からカーブの判定に困難さを感じていたが、下記のようなシステムの改善とともに判定が容易になってきた。

LP12 本体の改造 (電源外だし、カルーセルキットへの載せ替え)

フォノケーブルのバランス化とバランスアナログアキュライザー

仮想アースの導入とグレードアップおよびアースアキュライザー

その他のマイナーな変更

ターンテーブルシート (Magic Mat II) ターンテーブルアキュライザー
アームダンパー ダンパーフレーク

(アナログシステム変遷の系譜と EQ 特性)

6. その他の問題

カーブの判定は、位相に関するアンプやスピーカー、部屋の音響特性などにも影響される。特にスピーカーのネットワークやマルチアンプシステムには注意する必要がある。拙宅の場合、スピーカーユニットが平面駆動で、ネットワークがなく、NF を浅くかけた 3 極管シングルアンプ駆動であることや、スピーカーアキュライザーの整音効果などが幸いしている。

さらにユーザー側では、コンサートの経験、文献の知識、評価に適切な盤の保有なども重要な要素である。

【まとめ】

- ・盤の制作、販売にあたっては、カーブの特性を可能な限り公開してしかるべきである。
- ・再生機器側では、カーブの選定理由や選定されたカーブの Turnover や Rolloff の周波数を公表してほしい。また、設計制作にあたって試聴した盤のカーブの特性を公表してほしいし、オーディオジャーナリズムに対する忖度はあってはならない。
- ・オーディオジャーナリズムは、公平、かつ適切に情報提供し、オーディオビジネスへの忖度はなしにしてほしい。
- ・ユーザーは提供された情報を元に、盤の選定や機器の選択を適切に行うべきであり、問題点があれば業界側にフィードバックすることとしたい。
- ・RIAA カーブのみ対応機器の場合、トーンコントロールの調整で他のカーブの盤に対応することも一つの方法である。

以上